



学校だより 青い鳥

平成28年度9月号
さいたま市立上落合小学校
平成28年8月29日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



課題

校長 藤澤 太郎

真夏の密度の濃い暑さから少しずつ解放されようという時季になりました。しかし、まだ、数週間、この暑さと付き合っていかなければなりません。秋口を目指し、気力と体力を調整することが、目下の課題ですね。2学期もよろしく願いいたします。

9月は周年行事がありますので、それに向けての準備をしなくてはなりません。式典の内容も含め、子どもたちに理解してほしい一番のことは、周年の意味であると考えます。先々では、「この学校を卒業して良かった!」と思えるようになってほしいと思っていますし、今後も、この地域を中心に生活・活動してほしいところが、大人の共通した願いだと言えます。10年先の中央区や本校はどのように発展しているのでしょうか?目の前にいる子どもたちが考えることであり、子どもの成長も含めて楽しみですね。

さて、人生も後半のあとちょっととなると、その人その人で、自分に残された課題とか宿題が一つや二つあるものだと考えます。これに対して、人生のそれこそスタートの、今の子どもたちが自分で考える課題とは、どんなものなのでしょう?それは、よくある「将来の夢」とか「十年後の自分へ」とかの作文を読んでいると、少し分かったような気になります。中には、大変背伸びをして書いたものがありますし、むしろそんなに謙遜して書かなくても…という文章もあり、書いた時オンタイムでその子を知っている担任としては、複雑な気分になったり、子どもを頼もしく感じたりするものだと思います。

僕も元担任として、こんなことを考えていました。子どもが自分自身で探り感じている課題がはっきりしなくなってきたのでは?ということです。世の中、ユニバーサルデザインが流行し、まるでタブレットをスワイプするようなガイダンスが多くなってきているのか?また、自分のことをじっくり考える時間がないのか、考えようとしないうのか?ということも若干はあると思います。別の角度からは、子どもが夢や希望をもてるようなモデルが分かりにくくなってきているのではないのか?また、多くの人がイメージする幸せのかたちが、これも見えにくくなってきているのではないかと疑ったりもしています。

先日、信州の田舎に帰った時に古い友人がこんなことを言っていました。「楽あれば苦あり、以前よりは一生懸命働いている。いい気になってはいけない。」友人は、飲料メーカーの偉い人をやっていて、土日は自分の実家の田畑を管理している、いわゆる兼業農家なのですが、「いい気になってはいけない。」という自分の課題を短い言葉で表現してくれました。「いい気になる」自分が分かるということは、自分を取り巻く社会や家族のことがよく見えている証とも受け取れますし、あるいは、「いい気になって」失敗したことへの反省とも受け取れます。

これらから言えることは多くはありません。子どもの将来を考えた時に、我々大人もその未来の姿を想像することが難しくなっているということです。今の段階では、少しずつでも、社会に開かれた教育活動や体験をすることがいいんだろうなと思うところです。

ところで、件の友人は娘二人を育て上げ、既に孫がたくさんできて、次はどうするの?と聞いたならなんと「孫の世話が最高!」との答えがありました。その境地が分かるのに、僕はもう少し時間が必要と感じましたし、「いい気になってはいけない。」と単純に思いました。

2学期は始まったばかりです。そして多くの行事が予定されております。一つひとつの行事に対して、「自分の目標を考えもつこと」が大切で、その思いに対して結果がついてくるものだと考えます。今学期も頑張っていきましょう。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく